



いのちのパン

命のパン・
バプテスト教会



教会案内

-  牧師：馬渡章光
-  ipbckobe@gmail.com
-  〒 651-1342
兵庫県神戸市北区八多町柳谷877
-  078-982-1884



教会公式ホーム
ページ



Google マップ

集会案内

日曜日・
日曜学校
10:00 ~ 10:45

日曜日・礼拝
11:00 ~ 12:00

水曜日・
聖書の学びと
祈りの時間
19:00 ~ 20:00



卓球大会



クリスマスリース作り



味噌づくり



子供のゲーム

イベント

2026年

- 2月1日(日) ユースアワー
礼拝後
- 2月8日(日) バレンタインサンデー
10:30 ~
- 2月8日(日) 卓球大会
礼拝後
- 2月8日(日) 味噌作り
礼拝後
- 2月15日(日) World Missions Sunday
10:00 ~
- 3月1日(日) ユースアワー
礼拝後
- 4月5日(日) イースター礼拝
10:30 ~

私たちの教会

牧師あいさつ、小さな子供からお年寄りが集うフレンドリーな教会です。

卓球をしたり、季節によってはそうめん流し、餅つき、味噌作りもします。

何よりも礼拝では元気いっぱい賛美歌を歌い、聖書からの励ましのメッセージを聞くことができます。ぜひ一度私たちの教会にお越しください。

礼拝はちょっと…という方でも聖書に関して質問がある、英会話をしてみたいという方で教会に来られる方もおられます。

人生について、聖書について、英会話について興味がある方はぜひ教会にお問い合わせください。

心からお持ちしています。



大好評 “Eigo Here We Go!”

アメリカ育ちの先生から本場の英語を学べるチャンス！
自己紹介、日常会話にいろいろ勉強できます！

日曜日の13:00にご参加ください

32年前、命のパン・バプテスト教会をヘンリー・ワード先生ご家族が始められた頃、ある人が教会ではなく、パン屋ができたのだと勘違いし教会を訪ねられたそうです。私たちは食物のパンも愛していますけど、それよりも大切な命のパンをもっと愛し大切にしていますと答えられたそうです。

命のパンとは一体何なのでしょう？

わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。一聖書のことば一

1. いのちを与えるパン -----

最近、日本では米不足でニュースを騒がしています。なぜ大きなニュースになったのでしょうか？それは私たち日本人にとってお米は生活に欠かせない食物だからです。聖書の時代背景を考えた時に、パンというのは彼らの生活に必要不可欠な物でした。しかし食べることができるのは誰でしょうか？食べることができるのは働いた者だけです。聖書の教えるいのちのパンは誰でもいただくことができるのです。世界で一番有名な聖書箇所はこう言っています。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

一聖書のことば一

2. 必要を与えるパン -----

パンやお米は私たちの肉体的な必要を満たします。私たちの教会からそう遠くない焼肉屋に去年家族と行く機会がありました。お肉は言うまでもなく。私が感動したのが、お店が提供する三田米でした。ふわふわの炊き立て、それも地元で採れたお米を食べた時、日本人でよかったと心から思いました。それと同じように私たちがこよなく愛するいのちのパンである聖書は、読むたびに心に感動を与えます。悲しい時には私を支え、孤独な時に勇気を与え、病の時には励ましを与える素晴らしい神の言葉です。

まことに主は渴いたたましいを満ち足らせ、飢えたたましいを良いもので満たされた。

一聖書のことば一

3. 全ての人に与えられるパン -----

私たちの教会は全世界で活動する宣教師を支援しています。一組の宣教師は戦禍のウクライナで聖書を伝えています。戦争で武器を取り、人を傷つけ殺し合い、言葉にできないような現状を経験した兵士たちの多くは、故郷に帰ってくると自分を責めアルコールやドラッグに依存した生活を送るそうです。しかし、先生ご夫妻はそのような兵士にも心のケアをし、いのちのパンを伝えるそうです。なぜなら、このいのちのパンは一部の人種、一部の民族だけのものではなく全世界、全人類に伝えられるべきいのちのパンであるからです。

**終わらない戦争、止まらない物価上昇、
心が沈むニュース…こんな時代だからこそ希望を
与えるいのちのパンを私たちの教会で!!**

牧師 まわたりあきみつ

沖 正子（85歳）

命のパン・バプテスト教会教会員



私が5歳の時、戦争が厳しくなり、両親の出身地の広島の家島へ祖母と疎開しました。広島に原爆が投下され、私がいた家島に砂嵐が飛んで来ました。今でもあの時の光景は忘れることができません。終戦を迎え、父も戦地から帰ってきました。自然豊かな家島での家族そろっての生活は穏やかな幸いな時でした。

私とイエス様の出会いは、中学二年生の時、アメリカ軍の軍人さんが、母国に帰るのでお別れに「きよし、このよる」を英語で歌ってください、イエス様の話をして下さいました。全く初めての事で私は大変興奮しました。

年月が経ち、神戸に出て仕事につき、結婚をし、2人の息子が与えられました。息子たちはミッション系の幼稚園へ行くようになりました。私は幼稚園の隣接する教会へ出席するようになりました。教会の先生は、聖書から「**義人はいない。一人もない。**」（ローマ3章10節）、すべての人は罪人であることを教えてくださいました。「**罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。**」（ローマ6章23節） 私は罪のゆえに死んでいた者でしたが、救われ、キリストの十字架上の死と葬りと復活が私のためであると信じ、永遠の命を与えられました。「**人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。**」（ローマ10章10節） 私は、イエス様が私の本当の神様であることを信じ救われました。

神さまの深い愛と守りの中、両親が救われ、主人が救われる恵みを頂きながら、仕事も82歳まで働かせて頂き、好きな日本舞踊も72歳までする事ができました。

北区へ引っ越して、教会のチラシが郵便受けに入っていて驚きました。神さまの導きと思って、喜びながら教会へ一歩入って見ると「**主にあって強くあれ**」のみ言葉がありました。このみ言葉は私の宝物です。このみ言葉に力をもらい、元気になりました。神様に大きな愛を頂き、感謝の気持ちで一杯です。年を重ねると、体も老化して、障がいのある人のようになり、落ち込むこともあります。教会の兄姉に助けをいただき、集会に出席できて心からの喜びと感謝があふれています。残された人生、イエス様を一番に考え、イエス様から目を離さず、イエス様への信仰を全うすることが私の望みです。

あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
（ヨハネ14章1節）